

---

## 第2回ソーシャルビジネス推進イニシアティブ 議事要旨

---

日時：平成21年3月4日（水）13：00～15：00

場所：経済産業省別館3階第4特別会議室

出席者：[委員]中村座長、鈴木委員、関委員、谷口委員、原田委員、藤田委員、宮城委員（欠席：濱口委員、前田委員）

[地域協議会]河西委員、高井氏（加藤委員代理）、永沢委員、森氏（関戸委員代理）、山田委員、中村（隆）委員、藤目委員、田中委員、親川委員

### 1. ソーシャルビジネス全国フォーラムについて

#### (1) 日本ソーシャルビジネス宣言について

- ・「救世主」という言葉よりも「切り札」等の表現がよいのでは。
- ・本業の業種・業態転換でSBを始めるといった場合、宣言下部の「SB創出・参画・支援」のどこに含まれるのか。なければ表現の中に盛り込んでいただきたい。
- ・取り組みの中身を見ると、ビジネスの視点が強く、全てSBを起こしたいと考えている人のために書いているような印象に思える。
- ・SB宣言として外部に出すとなると、全く知らない人にとっては社会的課題解決にどう結びつくかという点が分かりにくいのではないか。
- ・SBは環境・福祉・教育のテーマに限られたものではないが、宣言文に全てを記述することは難しい。「環境・福祉・教育等」の「等」に多くを含めている。
- ・SBを理解している前提で考えれば、表現上、創出・参画・支援という意図は伝わるように思うが、そもそもSBが何かを説明するには足りないかもしれない。
- ・昨今の画一的な社会が限界に達していることから、いかに地域を活性化するか、ということがSBの原点だと思うが、SBは地域の第一次産業と結びつくことで創出される側面もある。SBが産業構造の見直しを促し、今までのビジネスと違う雇用を生み出すといった観点を出したということであると、農業等についての記述が入らないことには違和感がある。
- ・SBは新しい産業としてGDPや雇用の創出に寄与する。まずはこの認識を全国に定着させたい。
- ・SB、CBの取り組みを包括的にあらかず言葉として「持続可能な社会」という言葉がある。農業、他の社会的課題も全て含まれた言葉と考える。

宣言文については、委員より頂いた意見を踏まえて事務局にて座長と調整の上最終化し、フォーラム当日に発表する。

### 2. 今後の全国規模のソーシャルビジネス推進について

#### (1) イニシアティブの方向性について

- ・3年を目処にSB推進イニシアティブも自立することが前提になっているという認識だが、自立のイメージはあるのか。それによって実施内容も変わってくると思う。
- ・フォーラムがオープンな場であるので、集まって何かを進めることについての意見をいただこうと考えている。フォーラム自体が組織作りの場になるようなイメ

ージ。イニシアティブとしての今後についての議論はまだ進めていない。

- ・ イニシアティブについての明確なイメージはまだない。3年後のイニシアティブのあり方は予想できないが、予算が形を変えて残るかもしれないし、無くなるかもしれない。経産省としては、3年後にイニシアティブとしての何かを残したいと考えている。
- ・ 本件については、4月もしくは5月前半に改めて委員の方にはお集まりいただき、議論をしたいと考えている。
- ・ 多くの人の想いが拡散しているように思うので、3年後の到達点を共有する必要がある。SBはあくまでも手段であるので、それ自身が目的化するようなことにはしない方がよい。数値目標だけでできない啓発を進める漠然とした目標でもよいのでは。初年度だけでなく3年後にどうありたいかについて議論する必要がある。
- ・ 地域協議会とイニシアティブはどのように連携できるかまとめて頂ければ、イニシアティブの位置づけや3年後の見通しが見えてくるように思う。

本日委員より頂いた意見を踏まえ、4月～5月前半に具体的な議論を進める。

## (2) イニシアティブの進め方について

- ・ 3年後のイメージとしては、民間主導の会議体が設けられているということだが、これは全国フォーラムが成功することが前提となる。民間企業と協業し、それをサポートする形で官から支援をいただく形が理想である。
- ・ SB事業者評価のあり方がインプットとなり、地域の協議会が人材発掘・育成プログラムを作り研修を行ったり、金融機関が融資を行ったり、第三者機関が資格を付与したりする際にこの評価のあり方がベースとなると考える。
- ・ 9ブロック間のコミュニケーションが取れていない。また、全国のイニシアティブ自体が継続するには経済的な自立をしなければならない。合わせて、全国イニシアティブの具体的な目標が必要。最後に、融資制度や評価制度や55選についても、各地域で独立して実施するのか、地域が連携するのか、全国イニシアティブでまとめて実施するのか、各地域と全国組織の業務としての役割分担についても検討する必要がある。
- ・ 地域ではなく、全国イニシアティブだからこそできることとして、政策提言がある。民間企業で地域社会に貢献している事業者への税制優遇が等、届きにくい地域の声を政策提言という形で挙げられると有り難い。
- ・ SBという言葉が独り歩きしているような印象を受けた。まずはSBがどう一般の人に認知されていくかを考えるべき。地域を活性化するというのであれば、そもそもSBが何たるかがどれだけ認知されているかということが重要になると考えている。フォーラムでの反応を受けて、今後のイニシアティブのあり方が見えてくるのではと考えているため、フォーラム終了後に議論すると実りがあるように思う。
- ・ メディアも十分に利用して、地方にもSB事業者がいることをフォーカスしていただきたい。また、SBの説明をする必要はあるが、CBと同じ意味合いであるということも考慮した上での説明にしていただけると有り難い。

- ・ 地域と全国での切り分けについて、東海北陸では、S Bのメッセージを持つ映画の上映等、メディアを絡ませた展開を考えている。
- ・ 映画の上映会を地域協議会で行った場合、一定の資金が地域協議会に残る仕組みもできる。事業として注目している。具体的な事例を知りたい。
- ・ 政府の補助事業等は、現場では使いにくい。現場サイドからも意見を伝えたいと考えているので、今後の参考としていただきたい。制度設計の段階からS Bイニシアティブ・地域協議会の意見を吸い上げていただければと考えている。
- ・ 地域協議会とイニシアティブのコミュニケーションが重要。情報が共有されるような仕組みを構築する必要がある。
- ・ 人材育成・経営支援できる人材も育てる必要がある。S Bの認定制度を全国統一の認定としてイニシアティブが実施すると良いと考えている。
- ・ 全国イニシアティブが政策提言の機能を持つことで存在感をアピールできると考える。運営のあり方については、プラットフォームを機能として持たせることも有効ではないか。情報共有という意味ではテレビ等で全国発信いただくと普及啓発の意味で役立つ。
- ・ S BやC Bの定義がはっきりしない。文言としては理解しているのだが、どこまでがS Bと認識すればよいのか。フォーラムでも議論になると思う。会議を進める中で、S Bについての定義が明確になると良い。
- ・ 人材育成を誰がやるのか。実際運営する側の役割はどうなるのか。それによってアクションが変わってくるので整理をする必要がある。もう1点は、支援対象のS Bが見えて初めて方法論や方向性が見えてくるので、まずはS Bの具体的なターゲットはどこにあるのかを議論して、その上で支援策を検討するという流れがよい。
- ・ 人材育成の観点を考える際はかなり充実したコンテンツ及び担い手を検討する必要があるが、これを1中間支援組織が担うとなると正直難しいと感じている。海外の事例で良いものも参考にしつつ、組織設計を進めていきたい。当面は経産省の評価を実施した後で知恵を集めて検討を進めていく。
- ・ S Bについて枠を広く持たないと発展しないと考えている。日本に先進的な事例は多くない。海外の事例を調査することも必要かと考えている。また、職業の枠を超えて、今までにない発想を持つ人と情報共有できればと思っている。さらに、企業との連携も進めるべきである。全国フォーラムは、事業形態は様々だが、共通しているのは、ソーシャルな領域のもとに活動しているという点。

本日委員より頂いた意見を踏まえ、4月～5月前半に具体的な議論を進める。

以上